

西脇、加西、加東市と多可町の3市1町でつくる「播磨内陸医療事業組合」が運営する播磨看護専門学校(加東市家原)を巡り、小野市が廃止した上で、市内に誘致を目指す民間医療系専門学校への教職員移管を提案し、波紋を広げている。同市は運営経費が不要になるなどのメリットを強調するが、3市1町は看護師の確保などに懸念を抱いており、今後、紆余曲折が予想される。

播磨看護専門学校巡り小野市

(まごめ・森 信弘)

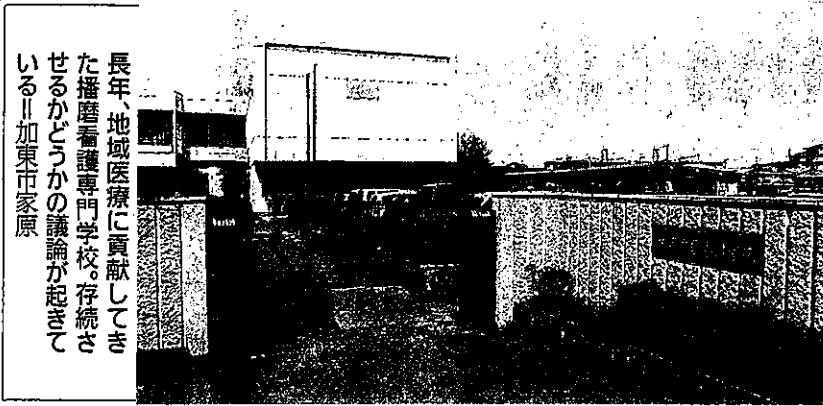
民間学校への移管提案

小野市によりますと、全国で専門学校などを運営する学校法人が進出を希望。用地は、北播磨総合医療センターなど医療関係機関が集積する国有地で3・5秒を予定する。利点として、築40年を超える播磨看護専門学校の建て替えと運営経費が不要▽看護師の定員は同校の35人に対し80人に増え、北播磨への看護師供給体制が充実する一を挙げる。

3年制で定員は1学年200人。看護師のほか全国的に不足する言語聴覚士、理学療法士、精神保健福祉士が各40人で、最遅く2023年度の開校を目指す。

播磨看護専門学校は1976年に開校し、学生数は昨年12月現在で96人。ほとんどが3市1町の出身者で、卒業後も多くが地元の病院に就職するという。かつては、小野と

建て替え、運営経費不要など利点



長年、地域医療に貢献してきた播磨看護専門学校。存続させるかどうかの議論が起きている。加東市家原

播磨看護専門学校
3市1町でつくる播磨内陸医療事業組合が運営する。入学金は構成市町の出身者が10万円、それ以外は18万円。年間授業料は一律20万円。負担金は均等割と人口割を組み合わせて決まり、2019年度は、西脇市約2500万円▽加西市約2600万円▽加東市約2400万円▽多可町約1500万円。組合管理者は加東市長で、構成市町の議員による議会も設けている。

三木市も同校を運営する組合に入っていた。関西国際大(三木市)に看護学科ができ、両市は同組合との二重支援を避けるために脱退。だが、看護師不足の解消にはつながっていないという。

小野市の蓬萊務市長は「この先増える看護需要も多様化する福祉職員の必要性を考えた時、全て官で賄う時代は終わったのではないかと指摘する。

3市1町の首長は3月末に管理者会を開催。看護師確保の見直しなどを小野市から聞くことを確認したという。5月の連休明けにも、同市側から説明があるという。管理者の安田正義・加東市長は「北播磨の医療圏域で必要な看護

師数が確保ができるかどうかが見えないと答えられない。

西脇市の片山象三市長は「北播磨での看護師の有効求人倍率は6倍で、神戸の3倍。開業医も含めなかなか集まらない中、播磨看護専門学校の卒業生の大半は地元病院に就職、定住している」と存在価値を認める。また、授業料が低く抑えられており、「私学への進学がかなわない人が、看護師への道を切り開く手段になっている」と公立ならではの役割も重視する。

西村和平・加西市長も「提案は検討に値するが、これまでの役割を担えるのかなど、慎重に見極めなければならぬ」としている。

多可町の吉田一四町長は「北播磨での看護師の確保については疑問が残る」との見方を示しながら、「今後、校舎の改築などが必要になれば、確かに負担は大きいと言えぬ」と話す。

西脇、加西、加東市、多可町 看護師の確保に懸念